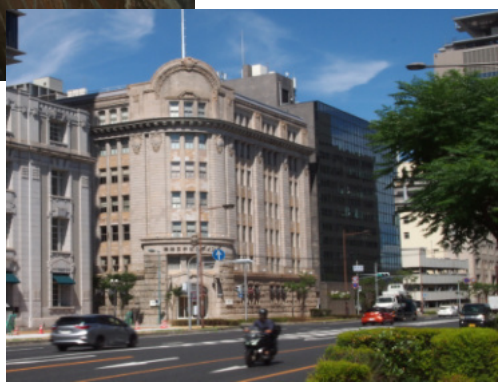
陳舜臣さんと
神戸を歩こう

Ｐａｒｔ　１



陳舜臣さんを語る会

陳舜臣さんと神戸を歩こう

	目　　次	頁	
	はじめに	2	Part1
1	Who is 陳舜臣?	3	
2	神戸を愛し神戸に生きた陳舜臣	4	
3	陳舜臣さんの引っ越し歴1	5	
4	陳舜臣さんの引っ越し歴2	6	
5	陳舜臣さんの引っ越し歴3	7	
6	三越神戸店　元町通すずらん燈　戦災にも焼け残った装甲ビル	8	Part2
7	トア・ホテル　須磨寺に立つ子規の句碑と陳さんの詩碑	9	
8	『枯草の根』『三色の家』ほか"陶展文もの"の舞台	10	
9	『他人の鍵』『南十字星を…』「隣はなにを」の舞台　北野町	11	
10	『凍った波紋』の舞台、山本通周辺	12	
11	陳舜臣さんと移情閣（松海別荘、孫文記念館）1	13	Part3
12	陳舜臣さんと移情閣（松海別荘、孫文記念館）2	14	
13	泰安公司　神戸華僑歴史博物館　陳舜臣アジア文藝館	15	
14	「海軍営之碑」と「海軍操練所跡」記念碑	16	
15	「三本松不動尊」と「私の好きな道」	17	
16	「内海岸通(のちの乙仲通)」と「旧居留地十五番館」	18	Part4
17	小学生の陳舜臣さんを診察した佐野実病院長	19	
18	神戸市立第一神港商業学校、及び横溝正史生誕地碑	20	
19	陳さん屈辱の記憶　植木市と指紋押捺	21	
20	追谷墓地	22	
21	外国人墓地	23	
22	華僑社会に生きて	24	Part5
23	陳さんが再度山に登ったのは太子の森コース	25	
24	元町商店街付近に残る陳さんの色紙	26	
25	生誕地の特定作業	27	
26	神戸よ	28	
27	おすすめコース例	29	
もっと知ろう	1 陳舜臣さんにとっての祖国とは	30	Part6
	2 アジア、中国ものに見えるコスモポリタニズム	34	
	3 陳舜臣略年譜	37	
	4 T氏の書架	39	
	あとがきにかえて　安井三吉著『孫文 華僑 神戸』紹介	42	
	※もっと知ろう：陳舜臣さんをもっと知ろう		

■表紙画像説明、上から順に

・陳舜臣アジア文藝館入口：ネーミングに込めた陳舜臣さんの願いは?
・「私の好きな道」：『神戸わがふるさと』「私の好きな道」に記述があります。
　　三本松不動尊から不動坂をすこし登り、西へ折れ、天神さんに出る小径。
・商船三井ビル：陶展文の店、「桃源亭」が入る東南ビルのモデル。

はじめに

陳舜臣さん（1924.2.18～2015.1.21）は、昨年、生誕１００年を迎え、神戸市内、いくつもの会場で記念行事が開催されました。また、今年は没後１０年の節目の年です。

ところで、１９９４年８月、脳内出血で倒れられてからは寡作だったこともあり、「陳舜臣さんって誰？」と問い返される昨今、書店で陳舜臣作品を探すことは難しくなっております。

そんななか、昨年９月、『桃源亭へようこそ　中国料理店店主・陶展文の事件簿』（徳間書店　２０２４）がジュンク堂書店三宮店文庫ベストセラーズの３位に入ったのは快挙です。編集・宣伝の仕方によっては読者に届くという良い事例ですね。

同著には、「くたびれた縄」「ひきずった縄」「縄の繃帯」「崩れた直線」「軌跡は消えず」「王直の財宝」及び、特別収録「幻の百花双瞳」の７作が収録されています。

このたび作成しました『陳舜臣さんと神戸を歩こう』はささやかな書物ですが、そこには陳舜臣ワールドが開けています。是非、冊子を手に、神戸のまちを歩いて下さい。

陳舜臣ファン・読者が増えることを願っています。

Chin shun shin

陳舜臣生誕100年記念

「陳舜臣さんが語りかけるもの」

2024年2月18日、わたしたちは神戸が生んだ著名な作家陳舜臣さんの生誕100年を迎えます。
膨大な作品と神戸を愛し、「激笑の世紀」を生き抜いたその生涯が語りかけてくるものに今一度耳を傾けてみませんか。

＊陳舜臣さんは、2015年1月21日、逝去されました。享年90歳。

（陳舜臣編「Who is 陳舜臣」集英社 2003 より）

1 シリーズ談話

「陳舜臣－人と作品」
陳舜臣入門講座のつもりで、お気軽にご参加下さい。

［日　時］
①2023年11月11日（土）
KCCビル10階会議室（海岸通3-1-1）
②　　12月9日（土）
KCCビル10階会議室
③2024年1月13日（土）
孫文記念館ホール（舞子公園内）
各回とも 午後2時～4時
［参加費］ 無料
（3回目（1月13日）は、孫文記念館の入館料（200円）が必要）
［申込み］
移情閣（孫文記念館）友の会事務局
［締　切］ 各開催月の初日まで
E-mail
ijoukakutomonokai@gmail.com
または　Fax：078-785-3440

2 特別展

「神戸を愛し神戸に生きた陳舜臣」
作品に登場するビルや通り、たびたびの引っ越し先などを確かめながら、陳舜臣さんの神戸への深い思いを12枚のパネルで追ってみます。
あわせて、作品の海外（中国・台湾など）版をご紹介します。

［期　間］
2024年1月31日（水）～2月24日（土）の水～土、及び2月11日（日）開館。
但し2月23日（祝）は休館。
※春節（2月10日（土））
［会　場］
神戸華僑歴史博物館展示室（KCCビル2階）
［閲覧料］ 無料
（ただし、神戸華僑歴史博物館の入館料が必要）

3 5分間スピーチ

「20人が語る『わたしの陳舜臣さん』」
陳舜臣さんが作品と生涯を通してわたしたちに遺してくれたものを20人が語り合います。
※神戸華僑華人研究会特別例会を兼ねます。

［日　時］
2024年2月17日（土）
午後2時～5時
［会　場］ 福建会館4階会議室（北長狭通5-1-21）
［形　式］ 一般参加者はオンラインのみ
［参加費］ 無料
［申込み］
下記のURL或はQRコードよりお申し込み下さい。
https://forms.gle/xrY5u9tnJLqK7d2a8
［締　切］ 2024年2月14日（水）

☆ 問い合わせ先：神戸華僑歴史博物館（電話：078-331-3855、水～土）

主催：移情閣（孫文記念館）友の会、神戸華僑華人研究会、神戸華僑歴史博物館
後援：神戸新聞社

陳舜臣生誕100年記念「陳舜臣さんが語りかけるもの」
主催：移情閣（孫文記念館）友の会　神戸華僑華人研究会　神戸華僑歴史博物館

陳舜臣（ちん しゅんしん）さんプロフィール■

１９２４年２月１８日、神戸市元町通７丁目で台湾出身の両親の次男として生まれる。

小学校入学前後の頃、祖父から、兄篤臣（とくしん）の相伴で漢籍の素読の手ほどきを受け、絵入りの『三国志演義』や『水滸伝』にも興味を持つようになる。４１年、神戸市立第一神港商業学校卒業。４３年９月、大阪外国語学校印度語部繰り上げ卒業。母校の研究所の助手になる。４５年、敗戦で日本国籍から中華民国籍へ。母校の助手をやめる。４６～４９年、３年半ほど台湾帰郷（中学で英語教師）。５０年、結婚。その後１０年ほど家業を手伝う。

右上の画像は、陳舜臣編『Who is 陳舜臣?』(集英社 2003)表紙カバーより

６１年、『枯草の根』で江戸川乱歩賞受賞。６９年、『青玉獅子香炉』で直木賞、７０年、『玉嶺よふたたび』『孔雀の道』で日本推理作家協会賞を受賞。７２年、初めての中国旅行。７３年、中華人民共和国籍取得。この後、堰を切ったように中国へ。７６年、『敦煌の旅』で大佛次郎賞受賞。８０～８１年に放送されたＮＨＫ特集『シルクロード -絲綢之路－』に井上靖、司馬遼太郎とともに出演。８９年、天安門事件。翌９０年、日本国籍を取得すると、４１年ぶりに台湾へ。以後、憑かれたように台湾へ。９２年『諸葛孔明』で吉川英治文学賞受賞。９３年、『琉球の風』がＮＨＫ大河ドラマ原作となる。９４年８月、脳内出血で入院。以後、ハンデを抱えての執筆となる。９５年１月、退院４日後の１７日、阪神・淡路大震災。

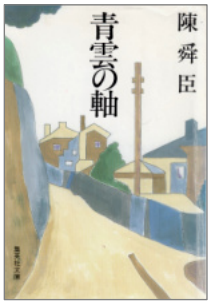
２０１５年１月２１日没、９０歳。

陳舜臣理解のキーワード
〝祖国〟と〝コスモポリタニズム〟

《国籍変更》
一、陳舜臣さんは、原籍は台湾ですが、日本国籍を持って神戸に生まれます。
二、一九四五年、終戦（日本の敗戦）で日本国籍から中華民国籍へ
　初めての国籍変更です。
三、一九七三年、中華人民共和国籍取得
　この年、甘粛、新疆への旅を機に、中華人民共和国籍取得。前年の探親訪問が伏線になっていることは確かです。
四、一九九〇年一〇月、前年の天安門事件をきっかけに日本国籍取得

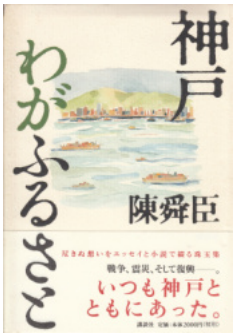
〈二重国籍状態〉
　一方、陳舜臣さんは戦後、ずっと、中華民国籍を保持していたと思われます。

《コスモポリタニズム》
　これからの中心は国家じゃない。
　日本人として育ったんだけれども、ほんとうは中国人だったとか、中国人として育ったけれど、実は日本人だったとか。陳舜臣さんの作品には、複雑な境遇の人物がたくさん出てきます。
　このことについて陳さんは、
「これからの中心は国家じゃないという気持ちはあります」
と、おっしゃっています。



自伝的青春小説
『青雲の軸』
集英社文庫版表紙

自伝エッセイ
『道半ば』（集英社）表紙



講談社（2003）

神戸のなかに私があり、私のなかに神戸がある

戦争も平和も、災害も繁栄も、私はいつも神戸とともに経験した。
神戸のなかに私があり、私のなかに神戸がある。
『神戸わがふるさと』「神戸と私」

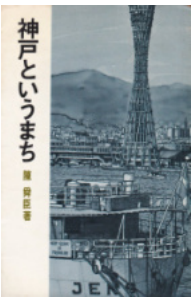
ハイカラで思いきりのよさが神戸の身上

神戸はその大胆な軽い精神で、新しい海外文化のパイオニアをつとめているうちに、
独特の文化をつくっていたのである。それをハイカラと呼んでもよい。
『神戸ものがたり』「水と火」

私は神戸人のもつ、思いきりのよさが好きである。薄っぺらとか、おっちょこちょい、
といわれるが、その軽みは一つの貴重な資質であるようにおもう。
中国の古いことを研究する学者が、神戸から輩出している…。
神戸の新しさ、軽さ、西洋志向などが、一種の反対バネとなったのではないか…。
歴史の浅いまちなどといいながら、もう開港百二十年（※1988年執筆）をすぎた。
神戸もそろそろ厚みをもってよい時代になったようだ。
そこから、別のもっとすばらしい魅力がうまれてくるかもしれない。
『含笑花の木』「神戸の魅力」

東京転居を諦めた理由　司馬遼太郎 の一言！？

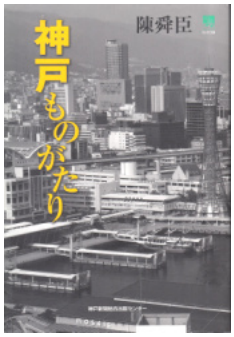
父は作家になって幾度となく東京に引っ越すことを考えていた。
毎年のように家族会議をしては結局神戸から離れないでいた。
大学時代からの友人である司馬遼太郎さんが、神戸の北野町にあった我が家に
よく遊びに来られて、父の書斎にこもって長々と話をしていた。
部屋の中はタバコの煙が蔓延していて、私や妹がお茶などを持ってドアを開けると、
煙で咳こむほどの大変な状態だった。
「神戸、関西から離れるのは賛成できないなぁー」と司馬さんに言われたのが
東京行きを諦めた大きな理由だったかもしれない。
『かまくら春秋 No.579』(2018年) 陳立人(舜臣氏令息)「父との歴史の旅」



至誠堂新書19（1965）

平凡社（1981）

平凡社ライブラリー
228　（1998）



のじぎく文庫の一冊
（2017）

3 陳舜臣さんの引っ越し歴 1

	西暦	年齢	住　所	備　考
①	1924	0	元町通7丁目	旧三越百貨店のならび(向かいは「白鶴」の倉庫)。ここで誕生?
②	1930	6	中山手通3丁目	一帯は華僑が多く「広東村」と呼ばれていた
③	1931	7	北長狭通4丁目	転居に伴い諏訪山小から神戸小へ転校
④	1934	10	海岸通5丁目	『三色の家』のモデルとなった家。父の会社「泰安公司」(1933創業)の社屋であり住居
⑤	1944	20	北野町1丁目	空襲に備え、陳家は蔡家と共同で一軒の家を借りた。蔡家の娘がのちの奥様
⑥	1945	21	垂水区御霊町	3月17日の空襲で、海岸通の家が焼失 北野の家も危うくなり転居
	1946	22	台湾	台北県立
	1949	25		新荘初級中学英語教師

■地図にない、**通し番号⑥**は JR垂水駅東、福田川沿い、**通し番号⑪**は阪急六甲駅北方、六甲学院正門前、**通し番号⑫**はJR住吉駅北東、住吉川沿いです。

転居歴の地図は(株)くとうてん提供

⑨の住居、当時のままの門扉
通称「イタリア館」の裏手→

⑦	1950	26	布引町2丁目3-19	陳家の実家。ここの二階で新婚生活
⑧	1951	27	北野町1丁目17	1952年、長男(立人)誕生
⑨	1955	31	北野町1丁目31	1957年、長女(由果)誕生 1961年、**「枯草の根」**で江戸川乱歩賞受賞
⑩	1965	41	山本通4丁目72-16	**「青玉獅子香炉」**で1968年下半期直木賞受賞
⑪	1969 年末	45	篠原伯母野山3丁目 1-14	六甲山麓の新築住居(六甲山房)。1994宝塚歌劇場で倒れ入院。1995阪神淡路大震災
⑫	1998	74	西岡本2丁目7-2	最後の住居となったマンション
	2015	90		逝去

■上掲門扉が残る⑨は作家陳舜臣の原点となった住居です。江戸川乱歩賞受賞後、予想以上に多くの原稿依頼が舞い込むようになります。『枯草の根』に続き、『三色の家』『弓の部屋』『割れる』『怒りの菩薩』などの長篇、そして多数の短編が次々生まれました。■典拠：『陳舜臣中国ライブラリー第30巻』(2001年 集英社)「年譜」、『道半ば』(2003年 集英社)、及び『青雲の軸』(1974年 旺文社)
■基礎資料提供：前田康男氏

4 陳舜臣さんの引っ越し歴2

④ 泰安公司(「三色の家」)　1934-44 (45.3 焼失)

「三色の家」は、現在のケンミン食品(株)ビルの南、道路敷あたりです

▲昭和10年頃の海岸通遠景(神戸市文書館提供)
泰安公司があったのは白矢印(加筆)の辺り

海岸通五丁目の我が家は、本通りに面していた。我が家は五丁目のちょうど中ほどにあり、住友倉庫の西隣というのが、最もわかりやすい。借家を転々としていた我が家も、私が小学校四年のときにここに移り、空襲で焼かれるまでの十年あまりのあいだ、ほぼ落ち着いたといえる。

我が家は典型的な華僑商館で、私は初期のころのミステリーの舞台に、間取りなどそのまま使った。作品のタイトルは『三色の家』であった。

(『道半ば』p.24、25)

⑤1944年、北野町1丁目

(空襲で)港湾設備がまっ先に狙われるのは、誰の目にもはっきりしていた。海岸通五丁目の我が家が危険区域にあるのはとうぜんなので、しばらく北野町一丁目に住居を移すことにした。

家主がサッスーンというユダヤ人で、そこを同じ貿易商仲間の蔡さんと共同で借りた。

(『道半ば』p.127、128)

この蔡家のお嬢さんこそ、のちの陳舜臣ご夫人錦墩(きんとん)さんです。

■昭和19年(1944)、陳舜臣さんが北野町に住んだ最初です。

三本松不動尊から不動坂をすこし登ったところに、西へ折れて天神さんに出る小道があります。陳さんが、ずっと愛し続けた小径です。その入口にあるのがサッスーン邸です。

▲「直木賞受賞直後、山本通の自宅前で」
『WHO is 陳舜臣?』(2003年 集英社)

⑩山本通4丁目の家

『燃える水柱』、昭和13年７月５日の神戸大水害の記述に続く文章です。

昭和四十二年の梅雨あけのころにも、すさまじ豪雨があった。そのころ私は山本通に住んでいた。坂道をはいった路地にあった家で…。（徳間文庫版p.10）

◀1965年から５年ほど、住居は山本通４丁目にありました。「海外移住と文化の交流センター」の西寄り、細い道を南へ下った所、路地の奥です。写真には写っていません。

六甲山房と名づけられた。庭には含笑花の木が花をつけ、遠くには人工島(ポートアイランド)が見えた

⑪六甲 伯母野山（おばのやま）の新築住居

義父（ちち）と義母（はは）は神戸の六甲に住んでいます。その家は、神戸港を見下ろし、六甲山へと登る坂の途中にあるのですが、すぐ近くの松蔭女子大学の塔の鐘の音を聴きながら過ごす、六甲の家の夕暮れを、私はすごく気に入っています。私たち（立人と私とふたりのこども）は鎌倉に住んでいて、時々、六甲の家に帰るのですが、義父の家にいると、不安なく、ゆっくりと、おだやかに時が過ぎていくのを感じます。

■講談社『陳舜臣全集第27巻』月報掲載の陳芳子さん（陳舜臣さんのご長男立人氏夫人）の文章。

⑫住吉川ほとりのマンション

陳舜臣さん記述の「細雪」碑です。細雪の碑は他にもあって、この碑はあまり知られていないようです。碑の裏に由来が刻まれています。谷崎の書と小磯良平作の雪模様。しっとり風情があります。

▲陳さんの最後の住居となったマンション「オーキッドコート」と手前、「くはらばし」。

いま私は二十九年住みなれた伯母野山の家から、住吉川のほとりに居を移した。久原房之助の旧邸宅跡地に建てられたマンションである。

住吉川にかかる久原橋を渡るのが私の散歩のスタートなのだ。橋を渡って一、二分ほど歩いたところ、甲南小学校の正門に曲がる角に、谷崎潤一郎の筆になる「細雪」の石碑がある。
（『道半ば』p.56）